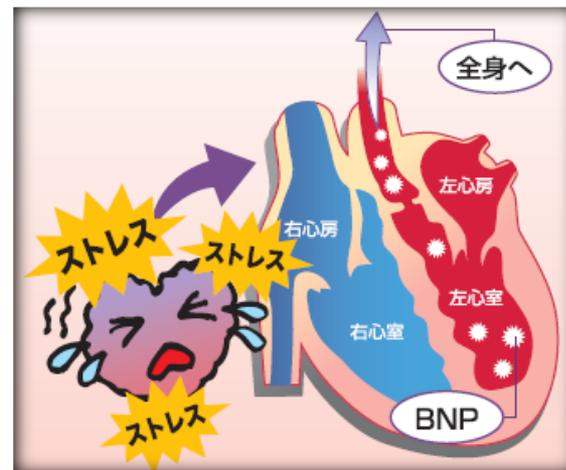


心臓の悲鳴を血液検査で聴く：BNP

「心不全」という言葉をよく聞きますね。心不全は、病名ではなく、心臓のポンプとしての機能が低下して、全身の臓器が必要とする血液を十分に供給できなくなった状態のことです。心臓は、無理をしてでも日々の暮らしのために休まず働く律義者です。その律儀さゆえに、心臓が少々弱ってきてもその時にからだが欲しいだけの血液を無理してでも送り出そうと頑張ります。日常生活における活動では症状が起らないごく軽度の状態のうちに、すなわち心不全の症状が出てくるまでに早期に見つけ出すことが大切です。



日本心臓財団ハートニュース2009年(65)

脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）は心臓（主に心室）から分泌されるホルモンで、水分を体外に出したり（利尿作用）、血管を拡張して血圧を下げたり（降圧作用）するなど、心臓に対する負荷を軽減する作用があります。何らかの要因で心臓に負荷がかかったときや、血液を押し出す力が必要以上になった（限界を越えた）ときには、心臓はみずからBNPを分泌してその負荷を和らげようとします。したがって、血液検査でBNPの血液中の濃度を測定した時、高い値を示しているということは心不全を起している可能性が高く、また軽度の上昇は心不全の予兆と判断されます。

BNP検査は、心臓超音波検査と同様に心不全患者さんの経過観察において心臓の精密検査や治療開始のための情報を提供する検査であり、血液検査の中で唯一『心臓の悲鳴を聴く』ことができるものとなっています。